

松下幸之助記念志財団 研究助成

研究報告

(MS Word)

【氏名】

蝶 慎一

【所属】(助成決定時)

広島大学 高等教育研究開発センター

【研究題目】

米国占領下沖縄の琉球大学における学生支援の理念と活動
—ミシガン州立大学の関与とその影響の再検討—

【研究の目的】(400字程度)

本研究の目的は、米国占領下の琉球大学における学生支援の理念とその活動内容について、ミシガン州立大学による関わりの実態とその影響を歴史的、実証的に明らかにすることである。

昨今、日本の大学では、学習支援、キャリア支援、課外活動等の広範な学生支援の活動が行われている。これまでの研究過程において現代日本の学生支援のあり方を捉え直すことを関心においてきた。そして、戦後日本の大学における学生支援の歴史を立体的に描くには、時間的にも、空間的にも分析対象を拡大することの必要性を自覚してきた。戦後の沖縄における代表的な大学機関である琉球大学における学生支援の理念と活動を解明することが本研究の目的である。そして、本研究が米国の州立大学から具体的な指導と援助を受けた戦後沖縄の琉球大学を採り上げることで、戦後の本土の大学における学生支援の理念や活動とは異なる学生支援の成り立ちや多様かつ独特な歴史を描き出すことを試行した。

【研究の内容・方法】(800字程度)

本研究では、以下3点の研究課題を設定し、検討してきた。

第1に、琉球大学の創設期における学生支援に関する先行研究を渉猟し、批判的検討を行った。その際に、琉球大学が刊行してきた大学の沿革史、周年誌なども検討した。加えて、戦後沖縄に関する教育史をテーマとする各種文献を購入し、琉球大学における歴史の特徴を再考する作業を実施した。第2に、ミシガン州立大学側、琉球大学創設をめぐる米国側、琉球大学側など各々の学生支援に関連する史資料の調査・発掘・収集を行った。この作業は、後で詳述する沖縄県公文書館、琉球大学附属図書館で多様な文書資料を複写することができた。第3に、本研究に関わる先行研究による知見を参照し、特に、戦後沖縄の琉球大学における学生支援に焦点を当てミシガン州立大学による指導と援助の実態の有無や、その具体的な影響の実態やそれらに関する可能性を検討した。

コロナ禍が続くなかではあったが、幅広く関連する一次史料の収集を行ってきた。例えば、2022年9月に琉球大学附属図書館沖縄資料室(沖縄県中頭郡西原町字千原1)、沖縄県公文書館(沖縄県島尻郡南風原町字新川148-3)における所蔵文献・史資料(マイクロフィルム2本及び紙媒体の未刊行資料を含む)を実地訪問調査により閲覧し、発掘・収集を行い、必要に応じて複写した。また、那覇市歴史博物館(沖縄県那覇市)において、那覇市市民文化部歴史資料室編(2002年)『那覇市史 資料篇 第3巻 2(戦後の社会・文化1)』、那覇市企画部市史編集室編(1978年)『那覇市史 資料篇 第3巻の3(戦後新聞集成1)』那覇市企画部市史編集室、を閲覧でき、特に琉球大学創設期の初期に該当する1950年前後の「うるま新報」や「琉球新報」等に掲載された琉球大学に関する記事の有無を確認できた。

あわせて、所属する大学図書館においても改めて関連する史資料を調査し、必要に応じて収集し検討に加えてきた。これらの基本的な作業を通じて厚みのある歴史的な検証に向けた研究上の準備が進捗できた。

【結論・考察】（４００字程度）

本研究は、大学史研究をはじめ、これまでの先行研究で検討されることが少なかった米国占領下沖縄の琉球大学の学生支援の理念と活動について、新たに発掘・収集できた一次史料に基づいて明らかにすることを試みた。

これまでも琉球大学の歴史については、ミシガン州立大学の全面的な関与による指導と援助が着目されており、その影響が大きかったことが先行研究でも指摘されている。（溝口聡『アメリカ占領期の沖縄高等教育』2019年、吉田書店）。また、ミシガン州立大学による関与の史実とその影響に具体的に言及した研究として家政学のカリキュラムの特徴を検証した研究もなされている（石渡尊子『戦後大学改革と家政学』2020年、東京大学出版会）。しかし、本研究が焦点を当てて考察してきた学生支援の形成過程においては、先行研究で検討されておらず、本研究によりミシガン州立大学による関わりにより具体的な構想や実践活動に大きく影響を与えていた可能性が析出できた。本研究助成を契機に発掘・収集できた多様な史資料を更に詳細に検討し、今後も継続して考察を進めていきたい。